

第78回秦野たばこ祭俳句大会 第一部

兼題「火」 雜詠

順位	作品	作者	住所
第一位	たばこ祭実行委員会賞		
第二位	市長賞		
第三位	市議会議長賞		
第四位	教育長賞		
第五位	県俳句連盟会長賞		
第六位			
第七位			
第八位			
第九位			
第十位			
第十一位			
第十二位			
第十三位			
第十四位			
第十五位			
第十六位			
第十七位			
第十八位			
第十九位			
第二十位			

13	14	14	15	16	17	17	19	19	20	22	22	22	25	27	28	29	31	33	点数		
1	2	3	3	2	0	0	1	0	2	4	1	1	4	5	3	5	2	3	1	特選	
615	623	93	618	36	53	641	573	87	31	640	571	565	54	44	2	509	81	13	45	句番	
外交はかくの如きか蜘蛛の糸	熟考の末の一歩や羽抜鶏	埋火をあやすが如く母覗く	老犬の海を見てゐる晩夏かな	父の日を失ひたるや戦火の児	七輪の火を高ぶらす秋刀魚かな	爽やかや物を減らしていく余生	ふかし芋割れば昭和の匂ひかな	父の風母の風来て門火焚く	蚊遣火や座椅子正しく客をまつ	万物の細胞歪む酷暑かな	秋蝶のはぐれて風になつたまま	地上より音の消えゆく日の盛り	母の為母せしやうに門火焚く	神殿へ火照る御輿を納めけり	夕映や発火しそうな鳥瓜	船の名で呼ぶる叔父や夏座敷	春炬燧種火のやうに祖母がある	篝火のはぜて一笛薪能	千枚田飛び火のやふに曼殊沙華	柳川青峰	沼宮内薰
桜庭義昭	荒理依子	田井京子	佐野良彦	武勝美	大山道子	外山遊児	佐藤和子	大澤秀子	須田聰子	北村文江	菅沼とき子	西岡青波	中村昌男	長谷川昭放	清水呑舟	中井町	茅ヶ崎市	厚木市	相模原市		
秦野市	川崎市	秦野市	横浜市	秦野市	厚木市	海老名市	秦野市	海老名市	小田原市	大井町	茅ヶ崎市	大井町	中井町	茅ヶ崎市	厚木市	相模原市	横浜市	秦野市			

天薈賞

天薈賞			
句番			
56			
火のいらぬ煮炊きの世とや文化の日			

故高橋天薈は秦野市俳句協会会長を務めた郷土の俳人で、平成二十三年三月亡くなりました。俳風は俳味のある俳句に開眼され、「顔」に所属し「顔結社賞」を2年連続で受賞。その作風を偲んで顕彰することにしています。

天薈賞

故高橋天薈は秦野市俳句協会会長を務めた郷土の俳人で、平成二十三年三月亡くなりました。俳風は俳

以下の句は一人でも多くの人に賞をという配慮から、同一作者の句を一句のみとしたため、入賞とはなりませんでしたが、入賞と同等のものとして、ここにその句を記します。

14	15	15	15	15	15	18	17	19	19	20	20	21	24	25	点数	
0	0	0	0	1	2	1	3	1	4	0	3	1	8	1	特選	
552	576	88	574	600	521	589	559	510	564	11	504	23	25	506	句番	
沢庵石きのふよりけふ座りよき	姿なきものが漕ぎゆく花筏	艶やかに火の帶を解く恋螢	植木屋の話上手や小鳥来る	啓蟄や足のとどかぬ三輪車	被爆樹の冬芽挙りて天を指す	有難うぶつきら棒にカーネーション	秋立ちて空に無限の生れけり	先頭もしんがりもなき鰯雲	絵手紙の全快の二字桃の花	戦火にて知る都市の名や鳥帰る	生涯を木綿の暮らし麦の秋	掛けられし水に火の付く祭衆	迎火や白寿の母の薄化粧	海鳴りの底より冬の立ち上がる	清水呑舟	清水呑舟
岸本純子	西岡青波	中村昌男	大澤秀子	大山道子	清水呑舟	沼宮内薰	菅沼とき子	北村文江	西岡青波	沼宮内薰	清水呑舟	清水呑舟	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	作者	
茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	大井町	海老名市	厚木市	茅ヶ崎市	横浜市	相模原市	大井町	茅ヶ崎市	横浜市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市	住所	